

【ご参考資料】

2013年11月8日

11月7日発表のECB(欧州中央銀行)の利下げについて

政策金利を0.50%から0.25%に引き下げ

2013年11月7日、ECB(欧州中央銀行)は定例理事会において、主要政策金利を0.25%引き下げ、過去最低の年率0.25%とすることを決定しました(11月13日から適用)。実質的に市場金利の下限となる中銀預金金利は0%に据え置き、上限となる限界貸出金利は0.25%引き下げて0.75%としました。大方の市場参加者は主要政策金利の据え置きを予想していました。

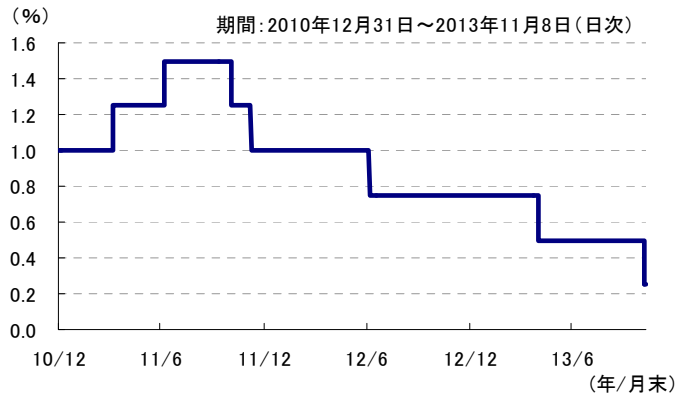
予想以上のインフレ率低下が背景に

今回の利下げの背景には、底入れの兆しが見えてきたとは言え、過去最悪の失業率が継続するなどユーロ圏の景気が依然下振れリスクを抱えるなか、インフレ率が予想以上に低下している状況があります。10月31日に発表になったユーロ圏の10月のインフレ率(速報値)は前年同月比+0.7%とおよそ4年ぶりの低水準となり、ECBが目標とする「2%弱」の水準を大幅に下回っています。ドラギ総裁は利下げ発表の記者会見のなかで、「2%弱」のインフレ率を維持することの重要性に言及しています。

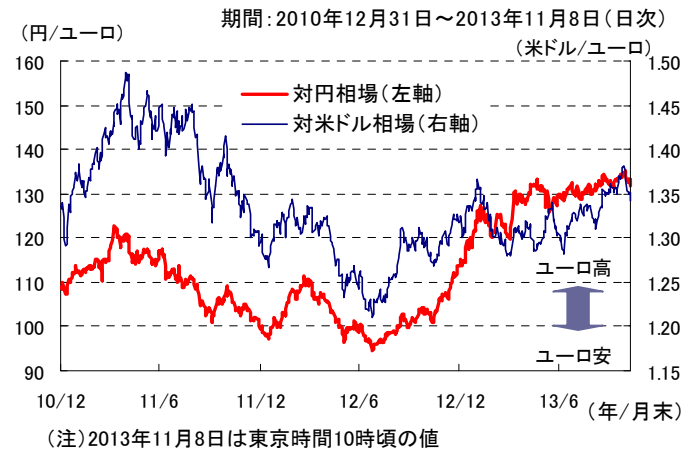
11月7日の欧州株式市場(ストックス・ヨーロッパ600指数ベース)は、ECBの利下げ発表を受けて、一時前日比1.5%程度上昇しましたが、終値はほぼ変わらず取引を終えました。8日の東京外国為替市場(午前10時頃)では、ユーロは対円で前日比1.2%程度、対米ドルで同0.7%程度のユーロ安となっています。次回のECB金融政策発表は2013年12月5日に予定されています。

以上

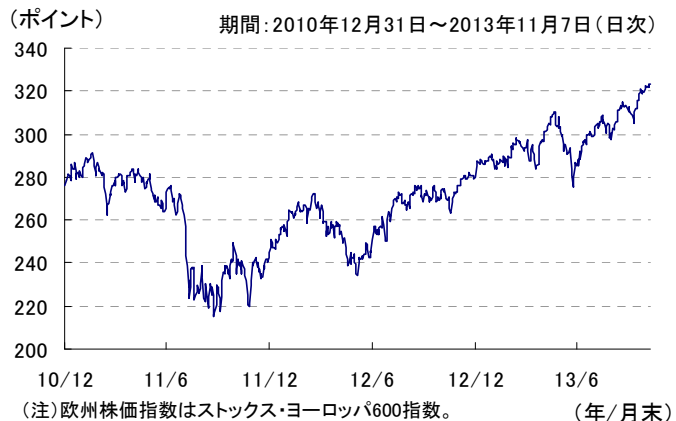
【図1】ECB政策金利の推移



【図2】ユーロの対円・対米ドルレートの推移



【図3】欧州株価指数の推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。